

コラム

いきいきさん

第26回 外来 手島織枝さん



安心して治療を受けていただけるよう頑張ります。

平成8年に入職し、この間、産休・育児休暇を2度いただきました。育児と仕事の両立に心が折れそうな時期もありましたが、上司やスタッフそしてクローバー保育園の先生方に支えていただき、頑張ることが出来ました。これまで病棟経験が長かったのですが、2年前より外来へ配属となり、新しい経験をさせていただいています。患者さまに安心して治療を受けていただけるよう、またお一人おひとりにあった看護が提供できるよう日々精進して参ります。今後とも、よろしくお願い致します。



原田病院外来診療担当表 (平成26年4月1日～)

●診療時間 午前9時～午後12時 午後4時～午後6時

☆当院では待ち時間短縮のため午前中の診療は予約制となっております☆

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	1診	重本	山下和臣	重本	水入(腎臓内科)	山下和臣	重本
	2診	竹内	西澤	水入(腎臓内科)	西澤	山下秀樹	山下和臣
	3診	山下秀樹	大下	永野	小野	大下	小田
	4診 DM	内藤	内藤	内藤	井上	井上	武本
	5診 整形外科	石田	石田	石田	黒田(血液内科)	石田	佐々木(内科)
	6診 初診	藤井	佐々木	小田	永野	小野	竹内
	7診	浅井	藤田(泌尿器科)	若本	武本	藤田(泌尿器科)	泌尿器科(広大医師)
		放射線科	石根、樋口	石根	石根、樋口	石根	樋口
午後	1診	16:00～18:00 永野	16:00～18:00 井上	15:00～18:00 碓井	16:00～18:00 浅井	16:00～18:00 藤野	
	2診	専門外来(14:30～16:30)不整脈呼吸器 濱田	循環器 木原	16:00～17:00 藤野	専門外来(14:30～16:30)呼吸器 PD 西澤	専門外来(16:00～18:00)呼吸器 濱田	DM 武本
	3診	16:00～17:30 小田	専門外来(14:30～16:00)CKD 水入	専門外来(16:30～18:00)HHD 西澤	専門外来(14:30～16:00)CKD 水入	専門外来(14:30～16:00)CKD 西澤	—
	4診	専門外来(14:00～15:00)禁煙外来 内藤	16:00～17:00 小野	—	—	—	—
	5診	専門外来(13:00～16:00)フットケア 井上	—	—	14:30～16:30 整形外科 石田	専門外来(16:00～18:00)循環器 竹内	—
	7診	—	—	—	専門外来(14:00～15:00)特定健診 武本	—	—

※手術・救急・学会などにより担当医が予告なく変更になることがあります。*CKD外来(慢性腎臓病外来)

一陽会

原田病院 院長 重本 憲一郎

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号 TEL 082-923-5161 FAX 082-921-8035

一陽会クリニック 院長 碓井 公治

〒731-5133 広島市佐伯区旭園10番3号 TEL 082-924-0033 FAX 082-924-0037

イーストクリニック 院長 有田 美智子

〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号 イーストビル6F TEL 082-506-0123 FAX 082-567-7115

横川クリニック 院長 藤田 潔

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7番19号 横川メディカルプラザ3F TEL 082-231-0111 FAX 082-231-0155

クローバー訪問看護ステーション 所長 大泉 淳
クローバー居宅介護支援事業所 所長 平田 恵美
クローバーヘルパーステーション 所長 甲斐慎一郎

〒731-5133 広島市佐伯区旭園5番58号 TEL 082-925-6222(訪問看護) 082-925-6221(居宅介護) 082-943-7088(ヘルパーステーション) FAX 082-925-6223(共通)

ケアレジデンス楽々園 施設長 大戸戸美代子
デイサービス楽々園 所長 西 幸子

〒731-5136 広島市佐伯区楽々園3丁目14番3号 TEL 082-943-8686(ケアレジデンス楽々園) TEL 082-943-8585(デイサービス楽々園) FAX 082-943-8588(共通)

あさひメディコ

グランホームあさひ 施設長 日 高 直 美
デイサービスあさひ 所長 畑 千 恵

〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号 TEL 082-943-7773(グランホーム) 082-943-8610(デイサービス) FAX 082-943-8600(共通)

周辺地図



あとがき

昨年、今年と大雪による被害が日本全国で多発しました。幸い広島では近年さほど大きな被害は有りませんが、決して安心できる状況ではありません。◆国土交通省では2月の積雪の最大値が累年平均50cm以上、1月の平均気温の累年平均が0℃以下の地域を積雪寒冷地域に指定していますが、これが日本の国土の6割以上を占めているそうです。全国で海水浴場のない県は7つありますがスキー場のない都道府県は5つしかないらしく、沖縄県を除けば日本全国雪は降るそうです。◆世界を見渡しても日本くらいの中緯度でこれほど積雪の多い国は見当たらないらしく、その原因は冬の季節風にあるそうです。極寒のシベリア気団から吹き出す北西季節風が日本海を渡る際に大量の湿気を含んで積雲を発達させ、日本列島に到達し大雪をもたらします。しかもその量は半端ではなく、新潟や金沢の年間降雪量はモスクワの2～4倍に達するそうです。◆季節風の吹く方向によっては広島でも大雪被害の可能性はあります。季節は変わりこれからは梅雨の大雨、台風への警戒が優先されると思いますが、今年全国で発生した大雪被害の事も忘れず、充分に警戒して頂きたいと思います。

発行 一陽会広報委員会

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161(代) FAX 082-921-8035
ホームページ http://www.icy.or.jp E-mail info@icy.or.jp (一陽会 広報室)
ご意見ご質問があれば上記の一陽会広報室までご一報ください。

あさひ

一陽会広報誌

平成26年

3月号

vol.42



題名 「サンピエトロ大聖堂」

撮影 地域連携室 梶浦拓也

是訓 「愛・和・誠」

一陽会職員は、病院訓「愛・和・誠」を基本理念として、日々の診療にあたっております。

一陽会 基本理念

- 1 愛情ある奉仕の心を以て地域医療・介護に貢献する。
- 2 和衷共同して技術の向上と人格の形成に努める。
- 3 誠心と創意工夫を以てその職責を全うする。

患者の権利

- 1 患者は人としての尊厳を維持する権利を有します。
一陽会職員は患者のプライバシーの保護に努め、患者により選択された医療の提供を行います。
- 2 患者は納得できる医療を受ける権利を有します。
一陽会は患者に必要な情報提供と説明を行い、インフォームドコンセント(納得診療)を適切に行います。
- 3 患者は医療機関の選択の自由の権利を有します。
患者にはいかなる治療段階においても他の医師等の意見をもとめる権利(セカンドオピニオン等)があり、一陽会はこれを支援します。

原田病院 基本方針

- 1 地域ニーズに応える地域密着型の病院をめざす。
すなわち、高齢化が進む今日、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。その為に、病診・病病連携を密にし、紹介患者の受け入れ、及び回復後の逆紹介を励行する。
- 2 医療、介護、福祉の関連機関と協力して、在宅医療を支援・推進する。
また医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期型病院を維持する。
- 3 腎疾患、糖尿病、透析を中心とした急性期医療を提供する。
特に透析医療では、当地区において中心的役割を果たすよう努力する。
- 4 患者中心の医療を目指す。
すなわち患者の権利、尊厳、利益、希望を尊重した医療を実現するため、相談窓口、検討機関を広く設け、積極的に実施する。

MRI（フィリップス社製 Ingenia3.0T）

原田病院ではこのたびMRI装置を、最新鋭の3.0T（テスラ）装置に更新しました。

新しい装置は静磁場強度が2倍になることで信号強度比（SNR）も2倍となり短時間で高画質な検査ができます。3.0T（テスラ）MRI装置は脳神経や脊椎領域、MRAなど限られた領域を得意としていましたが、本装置は、マルチトランスミットと言われる新しいRF送信技術やアプリケーションにより、今まで困難であった腹部骨盤領域も高精細な画像が得られるようになりました。また複数のコイルが寝台内蔵しており患者さまのポジショニング変更なしで頸部から骨盤部まで広範囲をカバーし、全脊椎や拡散強調画像による腫瘍イメージング（DWIBS）を撮像できます。またガントリー開口部が大きくなり患者さまの圧迫感が少なくなりました。

今後MRI検査の更なる充実を目指し、患者さまに負担の少ないやさしい検査の体制を整えられるよう努力してまいります。



他院からの委託検査も受け付けておりますのでお気軽にご利用ください。

○画像・報告書は原則翌日配布（着便）。
○緊急例は即日対応（TEL&FAX）も可能です。
ご予約はお電話で。
TEL（082）923-5161：総合受付
ご相談窓口：放射線科（内線163）
FAX（082）921-8035

オリンパス内視鏡システム EVIS LUCERA ELITE

最新の内視鏡システムを導入しました

原田病院では内視鏡検査を年間約2000症例（胃内視鏡検査1650症例、大腸内視鏡検査350症例）施行しております。

平成25年11月より当院ではオリンパスの最新の内視鏡システムEvis Lucera Elite を導入しました。従来のハイビジョン画質を大幅に上回る高精度な画像による観察を可能とし、ボタンひとつで通常観察と近接拡大観察を切り替えるデュアルフォーカス機能が搭載され、胃や大腸などピント合わせの難しい狭い空間において粘膜や毛細血管などの近接観察もできるようになり診断能の向上につながりました。またNBI（narrow band imaging）の画質も向上し、特に食道がんに対して信頼性の高い診断が可能になりました。最新鋭の経鼻内視鏡も導入し、5.4mmの先端部外径ながら高画質となっており、今までの経鼻内視鏡より精度が高く苦痛の少ない内視鏡検査が受けられます。院内情報ネットワークとも連携し業務効率の向上も得られました。

これからもこの最新鋭の機器を使用し、より一層の安心、安全、高精度の検査を提供していきたいと思ひます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



近隣医療機関のご紹介

青木耳鼻咽喉科クリニック（佐伯区五日市）

平成15年に開院し今年で11年が経ちました。原田病院の先生方には救急時にも迅速に対応していただき、画像検査でも大変お世話になっており感謝申し上げます。

耳、鼻、咽喉（のど）の病気、めまいなどを診療し、また鼻ポリープ、唾石やアレルギー性鼻炎に対してのレーザーなど小手術も行っています。話題になっている今年6月から保険適応になるスギ花粉舌下免疫療法（体質改善）は12歳以上の方が適応になりますが準備が整い次第開始する予定です。

当院はビル3階にありますがスロープ、エレベーターがありバリアフリーになっています。また、待ち時間を少なくするため電話、インターネットによる予約診療も行っています。

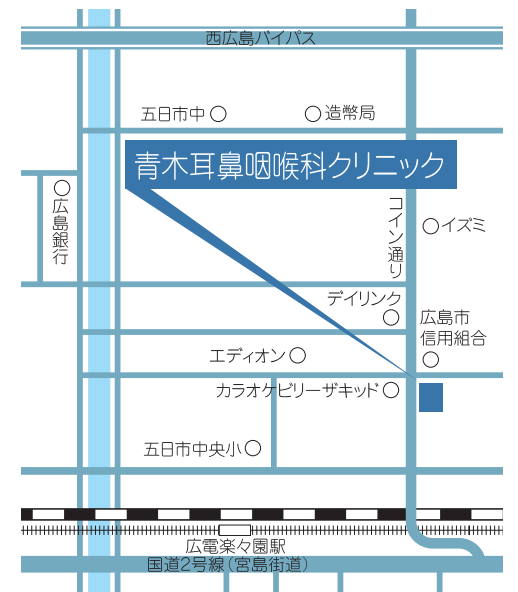
お子様からご高齢の方まで受診されますので、何でもお気軽に相談していただければと思っています。



微力ではありますが、今後も地域医療の一助になるよう努めてまいりますので宜しくお願いいたします。

青木耳鼻咽喉科クリニック
院長 青木 正則

- 所在地 〒731-5127 広島市佐伯区五日市4丁目4-27
TEL.082-923-0445 FAX.082-923-0445
- 診療科目 耳鼻咽喉科 アレルギー科
- 診療時間 午前 9:00～12:30
午後 15:00～18:00（土曜日17:00）
- 休診日 木曜日、日曜日、祝日
- 駐車場 11台



透析室増設（一陽会クリニック）

一陽会クリニックは、外来血液透析専門クリニックです。透析ベッド83床で、約270名の患者さまが通院されていますが、今回、3階に透析室（ベッド数14床）を増設いたしました。“透析を受けている患者さまがより快適な透析生活を送れる”という考えで増設を決定しました。車いすを利用する患者さまが増加している現状を



透析患者さま用談話室

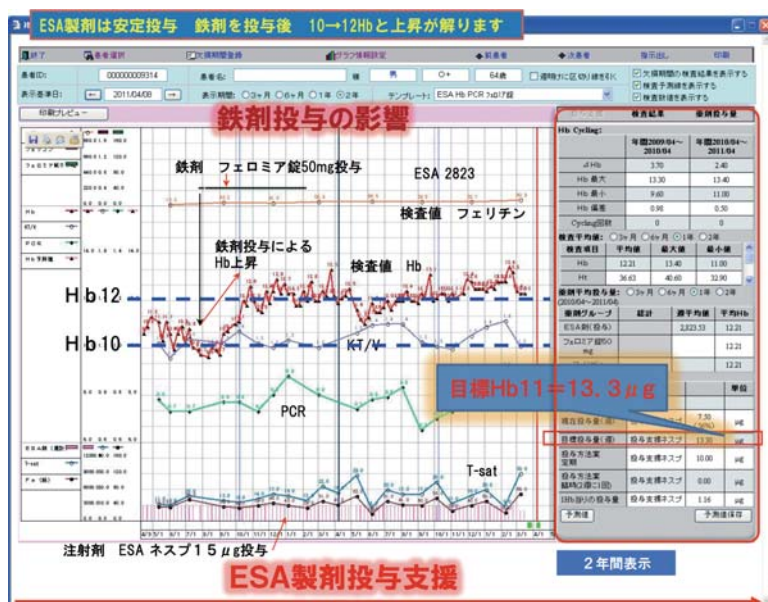
考え、ベッドの間隔を広くとり、ベッドへの乗り降りや、透析開始時・終了時の圧迫感を和らげられるように考えました。

今後も、患者さまがより快適な透析生活を送れるよう、設備面のみならず、医療チーム全体で協力して一陽会クリニックを改善していきたいと考えております。

今後とも宜しくお願いいたします。



診療技術部 副部長 本丸忠生



トピックス Ⅱ

第6回 日本静脈経腸栄養学会 中国支部学術集会

日時：平成25年12月14日(土)
場所：岡山大学 Jホール

演題：NST介入して褥瘡の改善がみられた1症例

医療法人一陽会 原田病院 NST

○山崎晃子、小嶋加代子、小竹秀子、藤本智恵、三上友樹、
細井るり子、橋本砂恵利、中村絵梨子、畠田妙子、黒田有香里、
山下秀樹

【症例】79歳女性

【主訴】るい瘦

【経過】

20年前から維持透析を受けていたが、食欲不振にて2012年3月
に入院した。左踵部にDESIGN判定6(深さは判定不能U)点の
褥瘡を認め、血清アルブミン(Alb)は2.0g/dlであったため、入院

時からNSTが介入した。栄養方法は入院時、経口摂取+末梢静
脈栄養、10病日から経口摂取+中心静脈栄養、45病日から中心
静脈栄養のみ、57病日から胃瘻からの経腸栄養法へと移行した。
しかし、褥瘡はDESIGN判定19点、Alb1.7g/dlと悪化したため、
下痢、嘔吐、体重コントロールに対し、経腸栄養剤の種類や量を
検討し、蛋白含有量の多い補助食品ゼリーを胃瘻部から注入す
る等の対応を行った。その結果、褥瘡、Albは改善傾向を示し、
198病日には褥瘡の治癒、Alb2.4g/dlと改善した。褥瘡委員会と
NSTが連携して介入することで褥瘡の治癒が得られた1症例を
経験した。

当院NSTの概要

2006年発足、2007年4月よりNST稼働施設認定。

1. NST検討会：週1回(毎週火曜日 13時～)
SGAIにて栄養不良と判定したスクリーニング症例の検討
2. NST回診：週1回(毎週水曜日 14時～)
アセスメント症例についての栄養状態の判定・提案
3. 勉強会の開催：月1回

構成

医師1名、薬剤師1名、看護師4～5名、管理栄養士2名、
臨床検査技師1名、理学療法士1名

医療法人一陽会 原田病院

当院NST介入状況

平成24年度

・スクリーニング件数 22.6人/月
(うち褥瘡患者 10.5%)

・アセスメント介入者 185人/年
(うち褥瘡患者 20.3%)

医療法人一陽会 原田病院

症例

症例 79歳女性
基礎疾患 末期腎不全
主訴 るい瘦

現症 身長:152.3cm 体重(DW):32.5kg
BMI:14.0kg/m² ALB:2.0g/dl
ADLは全介助 食事自力摂取可能

医療法人一陽会 原田病院

経過

平成24年3月

他院に入院の上、当院外来血液透析に週3回通院されていたが、
平成24年1月より、食欲不振が出現し、DW34kg→32.5kgと
体重減少傾向となる。るい瘦著明にて当院入院。
左踵部に褥瘡もあり、入院時からNST介入。

【入院時スクリーニング】

基礎エネルギー量 887.4kcal 活動係数 1.1 ストレステキス1.2(褥瘡あり)
エネルギー必要量 1171kcal
たんぱく質必要量 38.5g(1.2g/kg)

【栄養管理】

経口摂取(3食/日) + 末梢静脈栄養
また、食事前あり 速射にキリン・輸液
透析とみみり・2回摂取
栄養補助食品を付加

医療法人一陽会 原田病院

10病日

末梢ルート確保困難

経口摂取(1食/日)+中心静脈栄養開始

また、食事前あり エネルギー不足傾向
透析とみみり食やみみり食 体重増加がカリウム値の上昇により投与量を調整
→2回摂取

45病日

嚥下障害あり、経口摂取困難と
判断し、胃瘻造設術を施行。
中心静脈栄養のみ エネルギー不足傾向

57病日

経腸栄養剤(800kcal/500ml)の投与開始。

60病日には中心静脈カテーテルを抜去し1200kcalへ。

増量により、嘔気が出た → 注入間隔を調整することで改善 (15病日:嘔気頻発あり)

必要エネルギー量等も満たされており、注入も問題なく経過中であるため、
NSTは一時解除。

医療法人一陽会 原田病院

121病日

褥瘡委員会より介入依頼があり、褥瘡改善目的でNST再介入

【スクリーニング】

基礎エネルギー量 887.4kcal 活動係数 1.1 ストレステキス1.3(褥瘡あり)
エネルギー必要量 1269kcal たんぱく質必要量 48.8g(1.5g/kg)

【血液検査結果】

ALB 1.8g/dl BUN 8.3g/dl 中性脂肪 32mg/dl

【栄養管理】

・経腸栄養剤(1200kcal/750ml)

・たんぱく質含有量の多い栄養補助ゼリー

エネルギー:1200kcal たんぱく質:48g
亜鉛:22mg 鉄:0.9mg 鉄:13.5mg

開始時は、経口摂取可能であったが、摂取拒否あり、
→胃瘻部からシリンジを利用して注入

医療法人一陽会 原田病院

128病日

【問題点】下痢が継続。

⇒半固形の経腸栄養剤

(1250kcal/1300g)

に変更することで軽減。

(128病日:薬液でも内痔増悪を認む)

【問題点】投与量が増加したことで、

嘔吐・嘔気や透析間の体重が増加。

⇒水分量の調整をすることで改善。

(1200kcal/800g)。

(135病日:自性内痔みらる)

医療法人一陽会 原田病院

149病日

栄養管理は継続、問題なく経過。

栄養状態もさらに改善し(Alb1.7→2.2g/dl)。

褥瘡は改善傾向にあるため、

栄養補助ゼリーは継続し、NSTは介入終了。

(149病日:自性内痔みらる(前小腸内))

198病日

栄養管理は問題なく経過。

栄養状態もさらに改善し(Alb2.4g/dl)。

褥瘡はほぼ治癒。

栄養補助ゼリーは中止。

(156病日:褥瘡から2週間小腸内)

医療法人一陽会 原田病院

考察

- ・高齢で末期腎不全、嚥下障害、低栄養に褥瘡を合併した
症例に対して、NST委員会と褥瘡委員会が連携して介入
することで、栄養改善や褥瘡の治癒が得られた。
- ・嚥下障害や摂取拒否がみられるため、経口摂取が難しく、
静脈栄養、経腸栄養へと移行し、下痢や嘔吐、透析間の
体重増加などの問題が発生したが、投与間隔や経腸栄養
剤の種類や量の調整をすることで改善が得られた。
- ・経腸栄養剤のみでは不足する栄養素を確実に追加する
ために、栄養補助ゼリー等をシリンジを利用して胃瘻部か
ら注入したことは有効であった。

医療法人一陽会 原田病院